



特集

住み慣れたまちで 自分らしく

うきは市ではこれまでの高齢者福祉事業を見直し、地域の皆様が安心して生活できるよう、相談や継続的に支援できる体制づくりや医療・介護・地域が連携し効果的なサービスにつながる体制づくり、地域での生活支援や介護予防の取組を支援するなど、様々な生活上の困難を支え合う地域共生社会の実現に向けて市の「地域包括ケアシステム」の構築、推進を進めていきます。

うきは市地域包括ケアシステム

人材の確保・質の高いサービスの提供
医療・介護・地域・民間が顔の見える関係で地域を支える体制作り



地域の皆様が安心して生活できる体制づくりをさらに強化

- ・相談や継続的支援体制づくり
- ・医療・介護・地域が連携し効果的なサービスにつながる体制づくり
- ・地域での生活支援や生きがい介護予防、見守り体制づくりなど様々な取組を支援

うきは市では2020年からサンピットバリュー、セブンイレブン、とくし丸3台の移動販売車が市内を走っています。

市で移動販売車が走り始めたのは2014年、サンピットバリューの久次社長が地域の課題解決への取り組みを進める中で、地域住民のニーズに定める形の一つとしてスタートしたのが始まりです。

久次社長は「移動販売車は単に買い物をするだけでなく、買いに来ることと運動になり、そこで話をして、献立を考え選ぶ。一番いいのは料理をすること。それを組み合わせること、で、脳が活性化する。移動販売車の活動は認知症予防につながると言ってもいい





なないろ



ほっこり



松本区



ほっこり

各地区では住民主体の介護予防の取り組みとして「通いの場」や送迎付通所型サービスBが、コミュニティセンターや公共施設などを活動拠点に実施されています。

豊富コミュニティセンターでは、健康サークル「ほっこり」、御幸コミュニティセンターでは「にこにこサロン」「いきいきサロン」、江南コミュニティセンターでは「なないろ」として活動しています。

日々の活動に加えて、昨年度からは企業とタッグを組み、お化粧品教室を開催しました。お化粧品を行う時の手・腕などの身体動作や、お化粧品をすることによって気分が明るくなるなど、身体的・精神的なことにも役立つ新たな介護予防事業の一環として始めています。

また、市の理学療法士や看護師などが体力測定を実施し、その結果をもとに講話を行い、フレイル（虚弱）予防についての理解を深めてもらう取り組みなども行っています。（フレイル予防については、16ページをご覧ください）その他、歯科衛生士や薬剤師、管理栄養士など専門職による講話も行っています。



「と思います」と語り、その想いに共感したセブンイレブン、とくし丸が参入しました。



2021年1月14日に4者連携協定を締結（写真左＝岩下徳子さん〈とくし丸〉、右から＝原口オーナー〈セブンイレブン〉、久次社長〈サンピットバリュー〉）

2021年、うきは市と移動販売事業者3者は4者協定を締結し、定例会を開催しながら、移動販売を通じた地域の活性化や見守り等の情報交換や共有を行っています。また、移動販売車の運休のお知らせ等を防災行政無線を通して伝えることができる仕組み作りなどを行っています。

令和5年度見直し点

これまで一律給付をしていました。敬老祝金を人生100年時代をお祝いする100歳の方のみへのお祝いとして支給し、88歳、101歳以上の方へのお祝い金を廃止いたします。